

森 勇男（もり・ゆうお）

1、プロフィール

下北地域の民俗・伝承等の調査を基に、霊場恐山・イタコに取材した随筆や小説さらには、実業家の伝記の執筆など幅広い分野で活躍し、平成8年度にむつ市文化賞を受賞した。

<生没>

1915(大正4)年 11月 10日～2004(平成16)年1月7日

<代表作>

『下北能舞ものがたり』『小説・恐山の海』

2、作家解説

森勇男は大正4年11月10日、青森県下北郡脇野沢村小沢に生まれた。青森市立長島小学校・市立第一中学校を卒業後、野辺地町の城内小学校に代用教員として勤務したが、勉学の志を全うするために、満州国・旅順師範学校に入学。卒業後は満州・東安高等女学校に奉職した。そこに勤務中に、終戦を迎えた森勇男は敗戦の混乱の中で百名余の女学生を引率して、ソ連軍や八路軍の迫害に合うことなく、全員無事に故国へ帰還した。帰国後、青森県視学官補佐として、下北教育事務に勤務。さらに、東通村入口中学校長・砂子又小中学校長を歴任。

昭和28年より6期24年にわたって東通村教育長の任に当たる。昭和48年7月、元県教職員組合委員長の秋元良治の紹介で、青森市の出版社「北の街社」より、『下北能舞物語』を刊行。これが下北地域における個人出版の嚆矢となる。昭和50年4月、『下北半島の歴史と芸能』、同7月『霊場恐山物語』、51年7月『下北風土記』、52年6月、『小説・恐山の海』を刊行。同年、学校法人東安学園こばと幼稚園を設立。園長兼理事長となる。55年7月『下北恐山』、56年6月『地の果て 恐山』。57年より東通村助役を3期12年。61年7月『恐山鎮魂歌』63年『下北伝説の旅』、平成3年4月『下北のイタコ物語』、平成5年9月『双鶴の夢』。

平成8年度むつ市文化賞を受賞。同年10月『下北の能舞と義経伝説』、平成13年5月『前田萬太郎伝・雨ニモ負ケテ 風ニモ負ケテ』、平成15年3月『津軽海峡繚乱』(下北文化社・刊)を発行。

平成16年1月7日、年末より体調をくずし、むつ市立病院に入院治療中だったが、致死性不整脈により逝去。行年89歳。

生涯に12冊の著書を上し、その執筆意欲は最晩年まで衰えをみせなかった。特に最後の作品『津軽海峡繚乱』は420ページに及ぶ大著である。

3、資料紹介

○『津軽海峡繚乱』

図書

2003(平成15)年3月1日

195 mm × 133 mm

世に「地獄の海」とも「宝の海」とも言われた津軽海峡を中心に、津軽安東氏と南部氏の間を繰り返された激闘を、多くの資料を元に分析。さらには、浪岡御所の出現や「蛎崎戦争」の謎と実態に迫る。著者独得の歴史観に基いた随筆集である。